

さいたま市障害者社会参加推進センターだより



ぱらネット

第17号



朝霧裕さんとギタリストの奥野裕介さん

障害のある人もない人もおとなも子どもも

平成21年度「障害者週間」市民の集い

11月28日・与野本町コミュニティセンター



全国障害者スポーツ大会第9回新潟大会に参加の選手のみなさん

毎年行われている「障害者週間市民の集い」は障害者協議会がいちばん力を入れて取り組んでいる事業です。

素人集団ではありますが、持てる知識を総動員して取り組み、これが終わると、もう来年のことが頭の隅に芽を出しています。

精いっぱい取り組んだ今年の集いをご報告いたします。

出発日の十日は関東地方を台風が通過した日で、大宮駅で三時間遅れの新幹線を待ちました。が、北上した台風を追いかけの出發で、開会式も合羽を着ての参加となりました。

競技では皆さんほんとうによく頑張ったと思いますが、中でも最終日に最終競技として行われた4×100のリレーでは、さいたま市は大会に参加してから初めて念願の金メダルを獲得しました。リレーのメンバーの笑顔が素敵でした。

トークライブ 「響けぼくらの声」

朝霧裕さんは車いすで、さいたま市中央区で一人暮らしをなさっている女性です。作曲をしたり、コンサートをしたり、元気いっぱいを感じさせてくださる方でした。

語りかけるような歌と、優しい声でのお話と、ギターの伴奏者、サポートされている方との

目線でのコンタクトが印象的でした。

やりたいと思うことがあって、それを実現させてきた方。明るさの裏にはたくさん課題を乗り越えてきた自信が見えました。



はじめての

舞台演奏

さいたま市立与野本町小学校教諭

今泉和子

大きな拍手と、「ブラボー」「アンコール」の声をいただき子どもたちの顔は、緊張がとけ満足したすてきな笑顔になっていました。

「間違いなく演奏できましたよ。」
「たくさんの人々が喜んでくれたみたい。」
「うれしいね。」
と、思い思いに話しをしながら楽器を片付けていました。演奏する楽しさ、喜びを体得できた一日でした。

昨年の四月に初め

て楽器を手にした子どもがほとんどで、音も出ない、どのようにつつまのかもわからない状態でスタートしました。クラブ活動なので、練習時間が少ないのが悩みですが子どもたちは、時間をつくっては、毎日少しずつ練習を重ねていました。いい音が出なくてくじけそうな時も、上級生が教えたり、仲間が励まし、支え合いながらがんばる姿がありました。仲間と共に努力する子どもの力はすばらしいものです。子どもにも感激させられることが、しばしばあります。

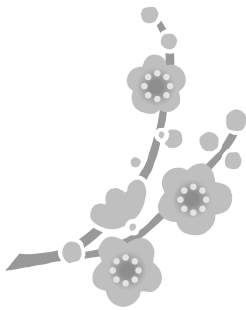
この演奏会に向けて、「心をひとつに、音をひとつに」をモットーに練習を重ねてきましたが、音はもっとよくなるはず。努力に裏付けられた確かな自信を胸に、聴いてくれる人に最高の「微笑み」を届けたい、それが子どもたちの目標です。





右上 中国舞踊「孔雀」
右下 中国舞踊「茶摘み」
上 日本の太鼓「八丈太鼓」

自由の森学園では、これらのものを体育の授業やクラブ活動で扱い、要請を受けてお祭りや施設の催しに参加しているという事です。



みなさん 楽しんでいただけた でしょうか

実行委員 浅賀 朱美

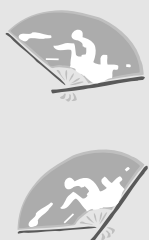
障害者週間記念事業「市民の集い」の実行委員を担当して三年目になり、初めてイベントの企画を提案させていただくチャンスが私にも訪れました。このイベントをどんなものにするかは、提案する実行委員となったメンバーの情報力とタイミングに掛かっていました。

何も提案できるものがなかった私でしたが、昨年の冬、自由の森学園に通う高二の姪が、埼玉会館で県内私立高校の発表会があり中国舞踊を踊るから観に来てほしいと言ったので家族と一緒に観に行きました。(地元の中学生のときいじめから学校に行けなくなり、高校を自由の森学園に決めた姪が、)色鮮やかな衣装で長いリボンをなびかせ

中国の曲に合わせて楽しそうに踊る姿に感激もしましたが、他にない珍しい演目であったことが強く印象に残りました。

そして、今年度の第一回実行委員会の時に、ふと自由の森学園の舞台を思い出し、今年がベストタイミングかもしれないと思いついて提案させていただきました。

当日の舞台では、中国舞踊の他に日本の踊りと太鼓も(入れて)披露してもらいました。元気にお色気のある中国舞踊が楽しかった人、力強い太鼓の響きに生き返った思いがした人、チームワークよく踊り続ける姿に感動した人など好評の感想もいただくことができ、終わるまで不安でしたが、明るく生き生きと演じてくれた自由の森学園の生徒さん達に依頼できて良かったと思えました。



反省会での発言から

全体として

- 参加者四百四十名。みなさんよく動いていただいで、一時は満杯状態で後ろの団体展示が見えなかったと言われました。
- 表彰は昨年も作文がよかったが、今年も孫がおじいちゃんのことを書いて、泣きそうでした。
- 視覚障害の方が来て、点字のプログラムはないかと聞かれました。
- ↓ 来年に向けて考えておきます。

イベント

- 小学生のブラスバンドはお母さんたちがいっぱい集まって超満員。子どもたちもかわいくてよかった。来年は高校のブラスバンに来てもらいたい。
- 自由の森学園は高校生に中学生も混じっていたのですが華



上 ゴスペルの方たちが客席に入って「希望（ゆめ）の街」をうたいました
 下 初めて参加したやどかりの里のポップコーンも、塩バター、キャラメルともよく売れました



- やかでよかった。
- 体験コーナーは外からもよく分かるようになっていて、人がたくさん入っていましたね。
- 幻聴幻覚体験は六十五人の方が体験されました。
- 販売用のテーブルの場所は抽選で決めた方がよい。式典が終わるまで販売は自粛してはどうか。

- ゴミはどうしますか。今回は実行委員が片付けましたが、基本的には飲食場所とした多目的ルーム(小)以外は業者に片づけは頼んであります。多目的ルームについては話し合っていませんでした。
- ↓ ゴミの問題は来年の課題として話し合います。

その他

- 終わってから片付けをしたのですが、どこまでやればいいのか、指示がないのでわからなかった。業者はどこまでやるのか。
- ↓ テーブル、椅子に関しては、設置から片付けまで、テーブルクロスを貼るのも含めて業者に委託してあります。

体験コーナー

本当は健常者と言われる方たちが一番関心を持っていただきたいのに、隅っこに遣られていく感じの体験コーナー。今年は特に力を入れました。素通りされてしまうこの部屋を目立たせるために考えたこと。

その1・聴覚に障害のある実行委員の方の腕を生かして、コミセンの門から入った真正面に巨



大なポスターを二枚、玄関に向かって左のガラスの壁に両面から同じポスターを二枚。

その2・精神障害を体験しようという「幻聴・幻覚コーナー」行列ができる盛況でした。

その3・3回に分けて行ったミニ手話教室。「こんにちは」「ありがとう」「さようなら」だけでも憶えていただきました。

もちろん、いつもの車いすもありました。



統合失調症の体験は いかがでしたか

副実行委員長

竹内 政治

障害者週間市民の集いで初の試みとなった幻覚・幻聴体験コーナーは大盛況でした。皆さん恐る恐るという感じで体験していました。それでも統合失調症の人が普段どんな生き辛さを抱えているか理解のきっかけになったのではないのでしょうか。必ずしも機械で体験したものがすべてではなく病気の数だけ症状があります。ただ、よく研究され肌で感じることでできるものでした。

さて、何故 私たち統合失調症の人間には幻覚や幻聴があるのでしょうか。そのことに意味はあるのでしょうか。唯一言えることは、この障害を持つ人は感受性が豊かすぎてしまうということです。良くも悪くも感じ

取る力が強い故、見えないものが見えてしまったり、聞こえないはずの音が聞こえてしまうのでしょうか。私はそのことをネガティブには捕えていません。適切な医療と地域の支えがあれば統合失調症をはじめとする精神障害者はよりよく生きられるのです。感受性が豊かな分、他者への思いやりも豊富です。

過去、精神病は恥ずかしいものだと思われていました。障害を隠し身を低くして生きてきたのではないのでしょうか。または精神科の閉鎖病棟で生涯を終える、地域に出ても家から出られないなど、偏見のなせる業です。

私たちウィーズは精神障害者への理解を広めるため活動しています。その中で、市民の集いで幻覚・幻聴体験コーナーは多くの人に身近に感じてもらえるいい機会になったのではないのでしょうか。



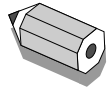
回答していただいたのは今年も昨年と同じ五十代、六十代の女性がいちばん多かったようです。昨年より観客数は増えてきましたが、アンケートを書いてくださる方がずいぶん少ない気がしました。

この事業を知ったのは、市報さいたまが一番でしたが、二番目はチラシでした。

今回のイベントは楽しかったかという問いかけには、八割が楽しかったと答えています。中でも圧倒的に印象に残ったのは、与野本町小学校の演奏と歌「うたえバンバン」でした。演奏は練習の成果が出ていた、歌は声が澄み切っていて心が洗われるようだという感想をたくさんいただきました。

その他、表彰式のお寿司屋で耳の聴こえないおじいちゃんが好きな小学生の男の子の作文朗読は、おじいちゃんへの想いが伝わり文章も整っていてよかったですという感想がありました。今後このような催しに参加したいと思えますかという質問には、ほとんどの方が「また来ます」と答えてくださいました。

以下に自由記述の感想を記します。



- 毎年異なった感激を味わうことが出来て楽しかった。
- 講演・音楽・舞踊が与野本町小以外は少々長すぎた。
- 中国の踊りを入れたがお色気があって楽しかったと思う。
- 太鼓が中途失聴の私にもよく響いて生き返った思いがした。
- 清水市長自らの出席・挨拶に

平成21年度「障害者週間」市民の集い プログラム

◎大ルーム (午前10時45分から午後2時30分)

■式典

- 主催者挨拶
- 心の輪を広げる障害者理解促進事業表彰式
- 第9回全国障害者スポーツ大会結果報告会

■イベント

トークライブ 午前11時30分～

「響け ぼくらの声」

朝霧 裕さん 作家・シンガーソングライター
ギター伴奏 奥野 裕介さん

コンサート 午後1時～

- 舞 踊 自由の森学園生徒のみなさん
- 合 奏 さいたま市立与野本町小学校生徒のみなさん
- ゴスペル ワッツJゴスペル

◎その他

- 障害難病者作品展示
- 幻聴・幻覚体験 手話講座 車いす体験
- 授産自主製品等販売・模擬店
- 障害・難病者団体紹介展示

- より新市長の障害に取り組み姿勢がうかがわれた。毎年市長の出席を希望します。
- 障害のある方が音に合わせて体を動かす様子はとても楽しそうでした。感動しました。また来ます。ありがとうございます。
- 障害者制作作品が少ないと思う。
- 洋式トイレが少ない。
- 一般市民・自治会組織への参加要請をより協力で推進していただきたい。
- 健常者の催しの時には感じない、人とのつながりを深く考えさせられた。今回初めて足を運んだが、今後もできる限り参加したい。
- 若い力生かして、少しでも技術を向上させ、まわりの方を楽しくさせる工夫とか、今以上に期待しております。
- 物品販売のコーナーがゴチャゴチャして、何が何だかわかりずらかった。

私に何ができるだろう

大宮障害者の施設づくりをすすめる会
副会長 大澤 明子

子ども時代は金沢市で過ごしました。空気はきれいで、高い建物も少なく星空がきれいでした。そのせいか、宇宙に興味をもって中学の卒業文集には「将来は宇宙飛行士になりたい」なんて書いていました。高校生の時、それが地球上に移り世界中を飛び回る外交官になりたいなんて思って外国語学部に進学したのでした。自分の語学力の拙さを思い知らされ、それは夢のまま終わりました。

卒業後、コンピュータでは世

リレートーク

わたしはわたし



うさちゃん親子と私（後列左）

● 大澤明子さんプロフィール ●

1951年12月23日生
夫と三人の息子あり
趣味：ネットサーフィン
好きなモノ：アインシュタイン、
TOKIO、ウルトラシリーズ

界にも通用する企業に就職してからは、もっぱらコンピュータに興味に移り、毎日が楽しくて、このまま定年まで勤めようと心に決めていました。しかし結婚して子どもができ、夫の転勤が決まると続けていくこともできず専業主婦になりました。三人の息子に恵まれました。三男は自閉症を併せ持つ重度の知的障害者です。息子の障害を知ってから、私の人生も変わってきました。もともとは楽天的な性格なのですが、地獄に突き落とされたように感じ、息子を道連れに心中もしかねない様な状態にまでなりました。様々な相談機関に相談しながら、転勤

という壁にも突き当たりながら家族の理解と協力で支えられてここまで来られたと思います。

さいたま市（当時の大宮市）

に転居して十五年になるうとしていきます。インターネットに熱中し始めたのもその頃からです。障害児を持つ家族の人たちと知り合い、毎日のように明け方までチャットしていました。また実際にみんなと会って話をする中で私は、悩み苦しんでいるのは自分だけじゃない、もっと大変な状況にある人たちが多くいることに気づかされました。

私に何ができるだろう：今、私は息子の通っているデイクエア施設「大宮太陽の家」の運営母体である「みぬま福祉会」で後援会活動をしています。「息子のためになることは、きつとみんなのためになる。」そう思っ日々活動しています。

障害者自立支援法への「反省」が盛り込まれた基本同意が結ばれました。これからの重要です。

実行委員はじめ関係者の皆様のおかげで無事に「市民の集い」も終わり事務局もほっとしております。実行委員の方々が探し出してきた出演者の方々を調整したり、依頼したり、いろいろ連絡させていただきながらこの方たちがどういう舞台を作り上げてくださるのかを想像するのは楽しいものです。事務局の仕事の中でも芸術的なことを味わえる好きな仕事です。

事務局だより

自由の森学園の指導者松田先生は、情熱的な印象の方でした。体育の先生？ 怖い方なのかな？ 当日の内容は扇子を持って踊る中国舞踊のかわいいお色気茶摘み、さんさ踊り、ぶち合わせ太鼓など、どれも素晴らしい出来でした。中でもさんさ踊りの先生の民謡はいい声！ ありがとうございます。（W）

発行 さいたま市障害者

社会参加推進センター

〒333-0801

さいたま市大宮区土手町

1-11-11

大宮ふれあい福祉センター4F

TEL 〇四八六五三・七二七一

FAX 〇四八六五三・七三三一

http://www.saitama-planet.com/

e-mail saitamacity-handynet@

bz03.plala.or.jp

発行・編集人 浅輪 田鶴子